

2025(令和7)年度 長野県工科短期大学校 事業計画・評価表

分野	事業計画				評 価			外部評価						委員コメント
	大項目	小項目	担当	取組内容	自己	関連資料	委員 A	委員 B	委員 C	委員 D	委員 E	委員 F		
教育	社会に期待される人材教育	・ITリテラシ教育の充実 ・専門知識と実践力の習得	企画総務委員会、教員	・カリキュラムに導入した「データサイエンス・AI概論」講義を実施する（継続） ・実験・実習と座学のバランスを取った教育を充実させる（継続） ・地域企業連携、実践力・プレゼンテーション力養成のため卒業研究発表会を公開する（継続）。	S	別紙1 別紙2	S	S	S	S	S	S	・設計から製造までの技術的な知識と実践力を有する人材育成や魅力ある教育のため、設備と教材の更新は重要。 ・本校の特長を活かした教育を通しての人材育成にタイムリーな成果をあげた。	
	授業理解の増進	・大学導入教育 ・専門知識の習得	企画総務委員会、教員	・1年前期における導入教育を実施する（継続） ・カリキュラムに導入した大学数学基礎講義（微分積分学、線形代数学）を実施する（継続）。	b	別紙1 別紙2	b	b	b	a	b	b	・基礎教育（特に、数学）にも力を注いだ。通常の授業の難易度は、授業評価によると適切であった。 ・学力定着のためにも継続して実施してください。	
	学校生活の充実	・学生の学びの支援	学生委員会	・学生自治会活動等に対して後援会による財政支援を行う（継続） ・後援会より競技大会参加時の旅費等の助成を行う（継続）。	a	—	a	a	a	a	a	a	・学校を応援したい企業等は多くいると思います。プロジェクトに対しての寄付などを集めることも積極的にされたい。 ・積極的に活動する学生を財政的に支援した。	
	4年制大学編入学制度の確立	・編入実績をあげるための編入希望者の支援	企画総務委員会	・編入志願者数を増やす取り組みとして、大学教育の魅力・重要性に関する校長講話を4月に2回実施する。 ・専門講師による大学数学基礎講義の補習を実施する（継続）。	a	—	a	a	a	S	a	a	・学生にとって、編入学制度は、進路の選択肢が増えたことは良いことである。ただし、学生全数から考えると、選択するのは僅かな人数ではある。（編入学試験も相当に難しく、編入できたとしても、授業についていけるかが若干憂慮される。）工科短大の就職先の良さや、現在の日本の状況を鑑みると大学に進学することが必ずしも良き選択であるとも限らないと思う。 ・大学編入希望者に対する激励と支援を与えた。今後の「合格」を切に願う。 ・編入学の道があるということは、卒業後の可能性が広がります。まずは実績を残せるようお願いします。	
研究	研究の推進	・研究活動の活性化 ・共同研究による地域貢献	教員	・学会発表や専門誌掲載を通じて研究成果を公表する（継続） ・大学、研究機関、地域企業との共同研究を推進する（継続）。	S	概況 P17～19	S	S	S	S	S	S	・学会発表への投稿も多くて、価値の高いご研究をしていると思います。 ・各教員が積極的に研究を推し進め、その成果を学会等で発表した。 ・先生方一人ひとりが意欲的に取り組まれていることが素晴らしいと思います。	
	研究資金の獲得	・外部研究資金の申請 ・外部資金獲得の支援	教員	・外部資金の獲得を推進する（継続） ・申請書提出前に、校内で事前チェックを行い、申請書の質を高める。	S	概況 P16	S	S	S	S	S	S	・科研費に採択される教員が在籍することは、学生にとっても先端技術や最新の知見を直接学べるという貴校の独自性（強み）にも繋がりますので継続して取り組んでいただければと思います。 ・豊富な研究実績に基づいて多くの外部資金を得た。「研究力」と「資金獲得」が好循環している。	
地域貢献	地域社会への貢献 産学官連携	・地域、科学イベントへの参加	広報委員会、教職員	・青少年に科学の興味深さを伝えるイベントへ参加する（継続） ・ものづくり教室 in 工科短大を開催する（継続） ・まちなかキャンパスうえだ（まちキャン）を活用する（継続）。	a	—	a	a	a	a	a	a	・大項目が「地域社会への貢献、産学官連携」と広く捉えているが、それに続く小項目が「地域、科学イベントへの参加」「信大P-TECH運営の検討と充実」と限定されています。小項目を増やすことも必要であると思います。 ・イベント等への参加で、「工学」の面白さを伝えた。 ・外部への積極的な連携は地道ですが大事なことです。少しでも多くの方に知ってもらえる工夫をお願いします。	
		・信州P-TECH運営の検討と充実	DX推進委員会	・5年間（高校3年間、短大2年間）のうちの4年目の教育、プロジェクト課題内容を関係者全員で検討し、実施する（継続）。	a	—	a	a	a	a	a	a	・大項目が「地域社会への貢献、産学官連携」と広く捉えているが、それに続く小項目が「地域、科学イベントへの参加」「信大P-TECH運営の検討と充実」と限定されています。小項目を増やすことも必要であると思います。 ・信州P-TECHを順調に進展させた。	
校運営	入試の改善	・学生募集要項（新規）	入試委員会	・高等学校進路担当教員アンケート、入学生アンケート等を用いて県民ニーズを収集分析する。 ・県民ニーズに十分配慮しながら、推薦入試における数学出題範囲等を検討する。	a	—	a	a	a	a	a	b	・令和8年度定員数に対しての学生充足率が60％台である。また、令和5年度は退学者数が16％程度であることは非常に危うい状況にあります。単に「数2」の影響だけと考えるのではなく、あらゆることを想定し、対処されたい。 ・入試方法についての意見を広く求め、数学の出題範囲を変更した。	
	広報の活性化	・本校認知度の向上（新規） ・高等学校訪問等（新規） ・オープンキャンパスの実施および充実	広報、入試委員会	・個人、グループ、高等学校単位での見学を積極的に受け入れる。 ・高等学校全学年の進学説明会へ参加する。 ・校長、副校長、入試委員を中心に高校訪問を実施する（継続） ・本校ウェブページを積極的に活用する（継続） ・オープンキャンパスを年間3回実施する（継続）。	a	—	a	a	a	a	a	b	・開校30年で学校の認知度はじゅうぶんにあると思います。それよりも、若者が魅力に思う学校での学び方の選択肢（例えば、2年半や3年で卒業、休学して半年間自主留学など）を増やしていくことも検討されたい。厚生労働省の学校運営に対する規制があるとすれば、特区申請なども視野にいれていただきたい。 ・認知度の向上を目指し、積極的な努力を積み重ねた。	
	県内企業への就職	・県内企業就職者の追跡調査（新規）	就職委員会	・企業向けアンケートを実施する。（調査対象：企業研究セミナーに参加実績のある企業、調査内容：定着率、活躍度合、学生に求められる資質、本校教育内容）	a	概況 P12～15	a	a	a	S	a	a	・卒業生が企業で活躍していることを確認した。 ・企業の方からは高評価が得られています。引き続き丁寧な指導をお願いします。	
	入学試験出願者数	・出願者減少への対策（新規）	教職員	・教育成果に関するプレスリリースやオープンキャンパス情報の積極的発信などを通じて、工科短期大学校の認知度を高め、入学試験出願倍率（出願者数／定員数）を回復させる。	b	概況 P9	b	b	b	b	b	c	・入学試験出願倍率の数値では、前年度より下がっていますが、今年度の取り組みに期待します。 ・入試の改善や広報活動等により出願倍率が回復することを期待します。 ・令和8年度定員数に対しての学生充足率が60％台である。また、退学数も令和5年度は16％程度であることは非常に危うい状況にあります。若者が魅力に思う学校での学び方の選択肢（例えば、2年半や3年で卒業、休学して半年間自主留学など）を増やしていくことも検討されたい。厚生労働省の学校運営に対する規制があるとすれば、特区申請なども視野にいれていただきたい。 ・広報活動や入試方法の変更などを検討し、出願者増加を目指した。	

【評価区分】 s：事業計画を大幅に上回る（特に優れる若しくは顕著な成果） a：事業計画を上回る（計画を上回って十分な実施） b：事業計画を実施（計画どおりに実施） c：事業計画はやや遅れている（計画をおおむね実施若しくは下回る実施） d：事業計画を十分に実施せず（特に劣る若しくは実施せず）

自己評価より高い評価

自己評価より低い評価